

今泉クリーンセンターに導入された事業系燃やすごみの

コンベア式ごみ分別検査機を見学してきました

●この検査機は、事業系燃やすごみに含まれる資源物分別の徹底がねらいです！

事業系の燃やすごみ（約1,4万トン/年）には、資源物が約3割入っているそうです。

●これまでは一般廃棄物収集許可業者が排出事業者から集めてきた燃やすごみを、職員がピット投入時に目視検査するやりかたで済ませていました…

パッカー車で運びこまれたごみはコンベアに乗せられ、4メートル先のごみを溜めるピットに移動する間を検査員が目視でチェック。1台分のチェック時間は5分位でした。多くても7分位で済むそうです。

実際の検査の様子は…これにはビックリ！

・コンベアと言えば、みんなで物の流れを監視できるようなものかと思っていたのですが、見学者には車から落とされたごみ袋も見えませんでした。

- ・検査は3人体制。
- ・透明や半透明の袋の中を即座に目視検査してピットに落としていました。



これが検査機

パッカー車到着



●現在は1日7件の検査だけです。(検査対象は搬入車の4分の1の数です)

- ・抜き打ち検査です。排出事業者の分別を促進する心理的な効果を期待しています。
- ・それ以外のごみ収集車はこれまでどおりピット投入時の目視検査で済ませています。

●これまでに引き取り拒否した袋の数は…

- ・1月(15日間)：48袋 2月：83袋 3月：54袋 だんだん少なくなっています。
 - ・袋の中の様子…現在は、1袋の中身全部が分別違反（例えば中身全部がペットボトルとか全部が紙とか）というような収集運搬業者による違反だけをはねる対象としています。
 - ・袋の中に資源物が混入しているのは排出事業者による違反です。どの事業者が出したかわかるようになっていきますから、これへの対応はこれから順次おこなっていきます。
 - ・これまでの反省に立ち分別違反に対して甘くならないようにしていくとのことです。
- <焼却停止後も事業系ごみは今泉で全量分別検査を行ったうえで名越に送るそうです>

●検査機導入で事業系ごみが昨年比で 約13%減少！

- ・昨年3月：1,020トン 本年3月：890トン・・・今泉と名越の合計です。